

第2章 高齢者の状況

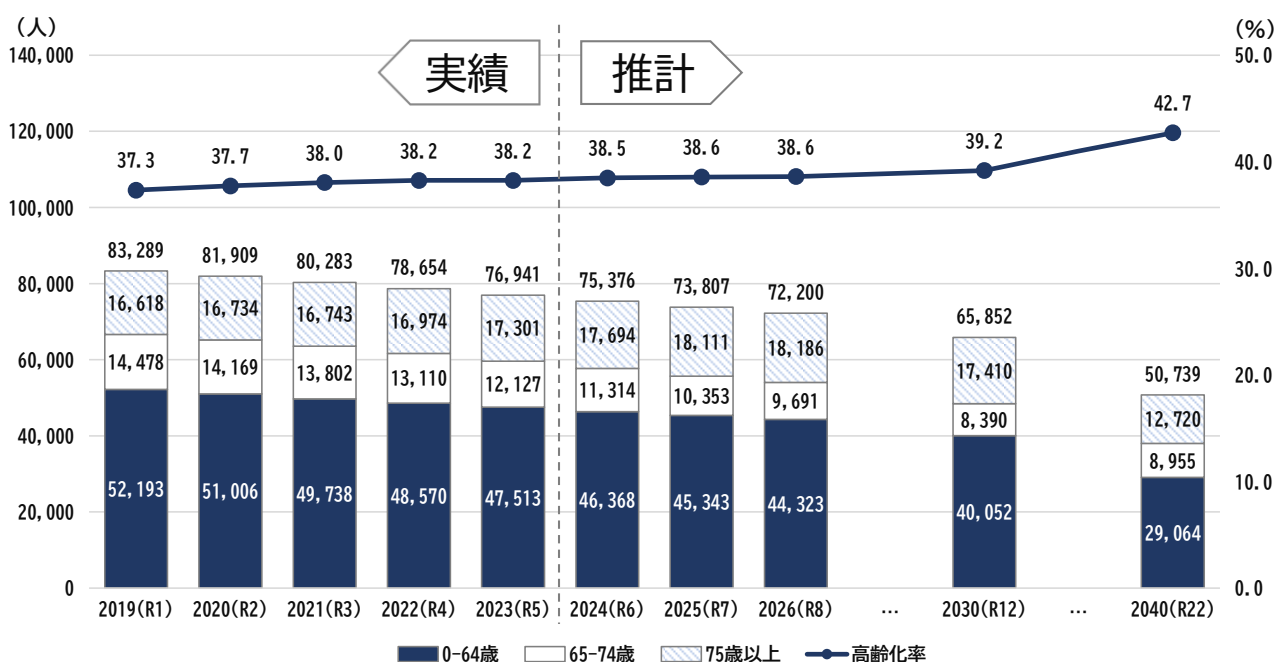
1. 高齢者の現状と将来推計

室蘭市の2023(令和5)年9月末現在の人口は76,941人、65歳以上の高齢者人口は29,428人となっており、高齢化率(人口に占める高齢者人口の割合)は38.2%となっています。高齢化率は2011(平成23)年に30%を超えてから、継続的に上昇を続けています。

高齢者人口の内訳をみると、2016(平成28)年9月末に75歳以上の後期高齢者人口が65~74歳の前期高齢者人口を上回ってから、その差は大きくなっています。

人口減少と高齢化の傾向は今後も続くものと考えられ、団塊世代が75歳以上となる2025(令和7)年には高齢者人口が28,464人、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040(令和22)年には21,675人となり、高齢化率が42.7%となることが予想されます。

▼ 年齢3区分別人口と高齢化率の推移と推計



資料：住民基本台帳（各年9月末）

単位：人

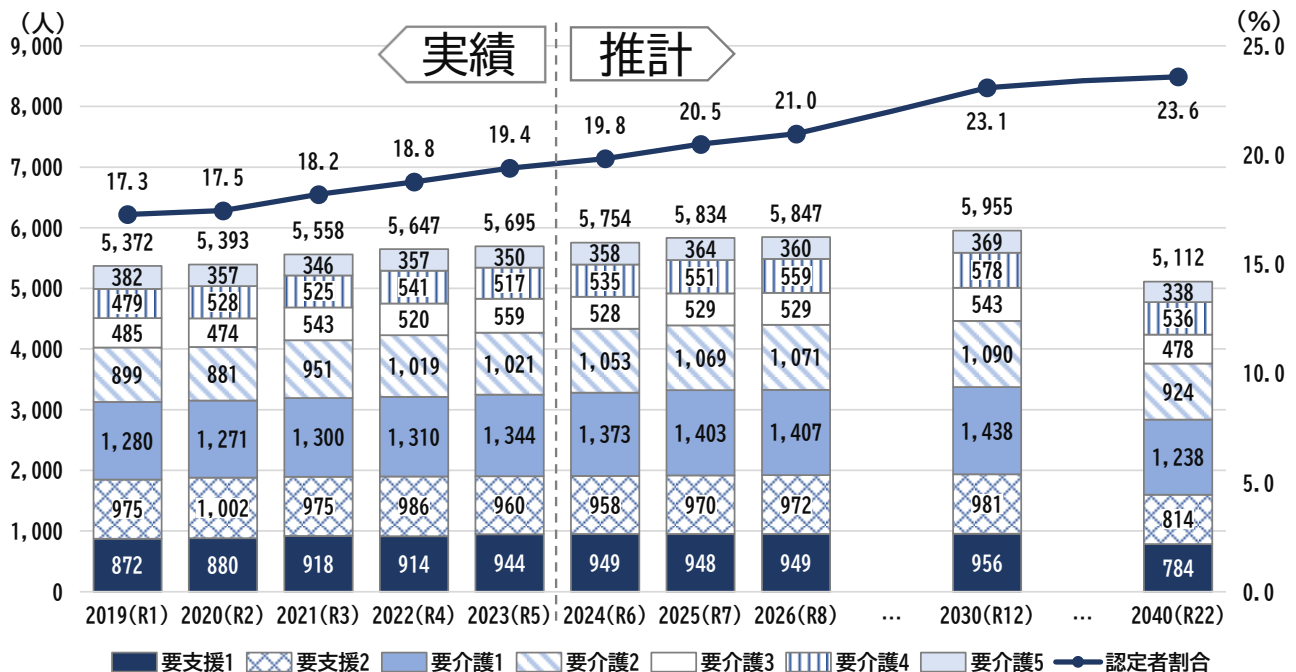
	実績値					第9期推計値			将来値	
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2030(R12)	2040(R22)
総人口	83,289	81,909	80,283	78,654	76,941	75,376	73,807	72,200	65,852	50,739
高齢者数	31,096	30,903	30,545	30,084	29,428	29,008	28,464	27,877	25,800	21,675
75歳以上	16,618	16,734	16,743	16,974	17,301	17,694	18,111	18,186	17,410	12,720
65-74歳	14,478	14,169	13,802	13,110	12,127	11,314	10,353	9,691	8,390	8,955
0-64歳	52,193	51,006	49,738	48,570	47,513	46,368	45,343	44,323	40,052	29,064

2. 要介護認定者の現状と将来推計

認定者数は、2020(令和2)年まで概ね横ばいが続いていましたが、2021(令和3)年9月末以降は増加しています。

将来の認定者数を推計した結果、2026(令和8)年には5,847人、2030(令和12)年には5,955人、2040(令和22)年には5,112人の認定者数が見込まれます。

▼ 要支援・要介護者数と認定者割合の推移と推計



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（見える化システムより取得、各年9月末）

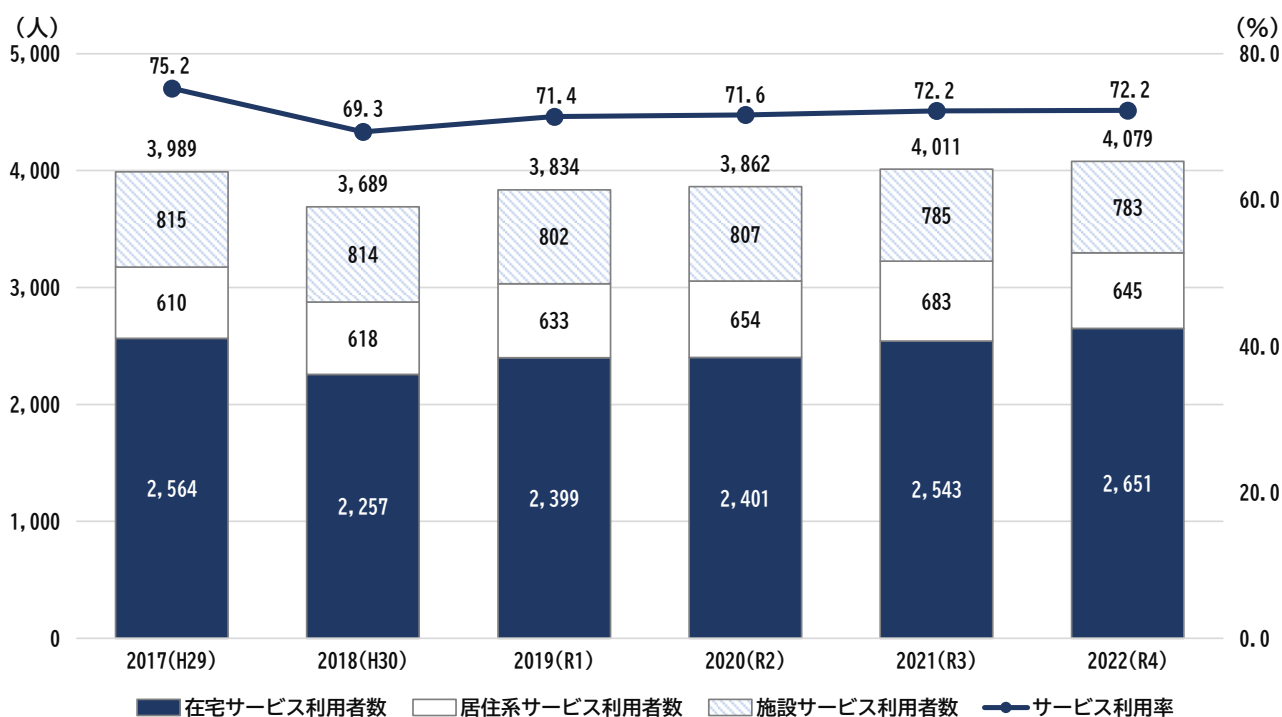
	実績値					第9期推計値			将来値	
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2030(R12)	2040(R22)
認定者合計(第1号)	5,372	5,393	5,558	5,647	5,695	5,754	5,834	5,847	5,955	5,112
要介護5	382	357	346	357	350	358	364	360	369	338
要介護4	479	528	525	541	517	535	551	559	578	536
要介護3	485	474	543	520	559	528	529	529	543	478
要介護2	899	881	951	1,019	1,021	1,053	1,069	1,071	1,090	924
要介護1	1,280	1,271	1,300	1,310	1,344	1,373	1,403	1,407	1,438	1,238
要支援2	975	1,002	975	986	960	958	970	972	981	814
要支援1	872	880	918	914	944	949	948	949	956	784
65歳以上認定者割合	17.3%	17.5%	18.2%	18.8%	19.4%	19.8%	20.5%	21.0%	23.1%	23.6%
65歳以上人口	31,096	30,903	30,545	30,084	29,428	29,008	28,464	27,877	25,800	21,675

※認定者割合＝認定者合計(第1号)／65歳以上人口

3. 介護サービス等の状況

介護サービスの利用者数合計は2022(令和4)年9月末の時点で4,079人となっており、サービス利用率と共に2019(令和元)年以降増加傾向となっています。施設サービスの利用者数は減少している一方、在宅サービスと居住系サービスの利用者数は増加傾向となっています。

▼ 介護サービス利用者数の推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（見える化システムより取得、各年9月末）

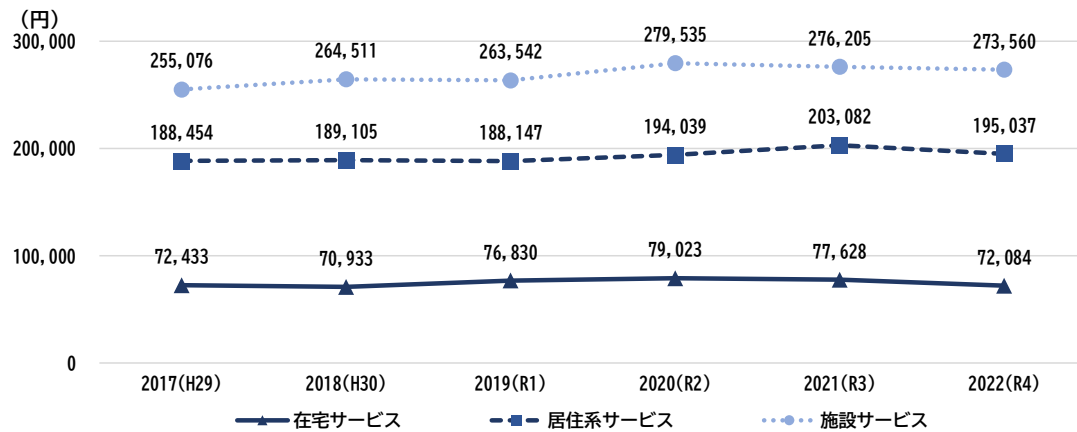
単位：人

	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
サービス利用率	75.2%	69.3%	71.4%	71.6%	72.2%	72.2%
利用者数合計	3,989	3,689	3,834	3,862	4,011	4,079
施設サービス利用者数	815	814	802	807	785	783
居住系サービス利用者数	610	618	633	654	683	645
在宅サービス利用者数	2,564	2,257	2,399	2,401	2,543	2,651
認定者合計	5,301	5,323	5,372	5,393	5,558	5,647

※施設サービスとは、介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護医療院・介護療養型医療施設を指します。居住系サービスとは、特定施設入居者生活介護・認知症対応型共同生活介護・地域密着型特定施設入居者生活介護・地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護を指します。

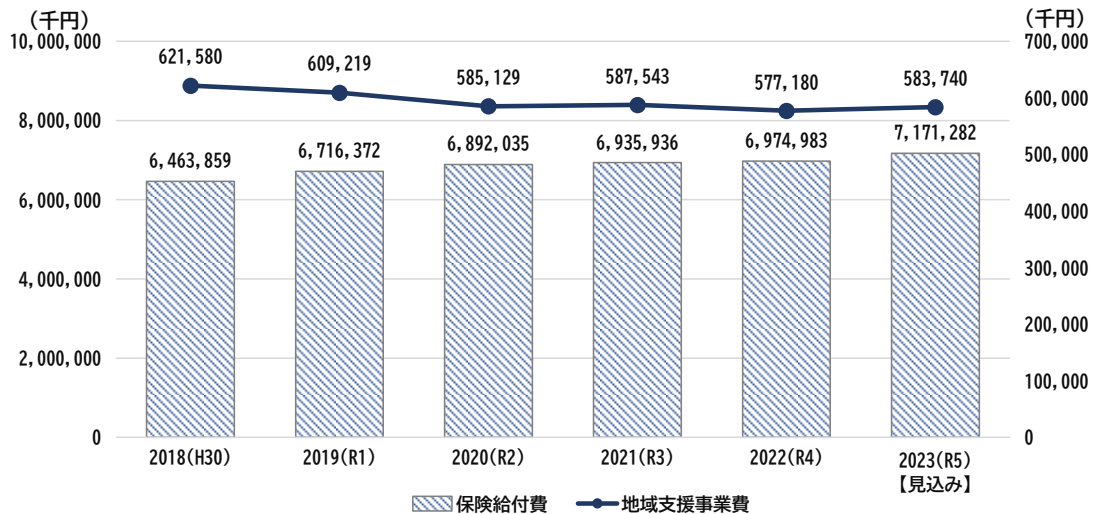
※サービス利用率は、利用者数合計÷認定者数の割合で算出。

▼ 受給者一人あたり給付月額推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（見える化システムより取得、各年9月末）

▼ 保険給付費と地域支援事業費の推移



資料：室蘭市

▼ 計画値との比較

(単位：千円、%)

	R3			R4			R5			計		
	計画	実績	対計画率	計画	実績	対計画率	計画	見込み	対計画率	計画	見込み	対計画率
保険給付費	6,881,627	6,935,932	100.79	6,950,173	6,974,981	100.36	7,059,404	7,171,278	101.58	20,891,204	21,082,191	100.91
介護サービス事業費	6,125,027	6,175,427	100.82	6,218,683	6,239,888	100.34	6,329,821	6,435,610	101.67	18,673,531	18,850,925	100.95
介護予防サービス事業費	313,273	327,663	104.59	311,504	324,969	104.32	305,735	335,492	109.73	930,512	988,124	106.19
特定入所者介護サービス等費	229,621	219,607	95.64	205,051	190,109	92.71	206,879	185,124	89.48	641,551	594,840	92.72
高額介護サービス等費	207,888	206,915	99.53	209,175	213,502	102.07	211,266	208,370	98.63	628,329	628,787	100.07
審査支払手数料	5,818	6,320	108.63	5,760	6,513	113.07	5,703	6,682	117.17	17,281	19,515	112.93
地域支援事業費	609,834	579,523	95.03	619,170	570,232	92.10	628,717	576,762	91.74	1,857,721	1,726,517	92.94
介護予防・日常生活支援総合事業費	476,083	449,291	94.37	485,419	438,799	90.40	494,966	443,104	89.52	1,456,468	1,331,194	91.40
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業	106,409	104,427	98.14	106,409	105,311	98.97	106,409	106,869	100.43	319,227	316,607	99.18
包括的支援事業費(社会保障充実分)	27,342	25,805	94.38	27,342	26,122	95.54	27,342	26,789	97.98	82,026	78,716	95.96

※地域支援事業費について、計画対象外の事業費があるため上記のグラフとは一致しません。

※千円以下切り捨てのため、実際の数値とは誤差があります。

資料：室蘭市

4. 高齢者を取りまく課題

第8期計画では、「介護予防・健康づくりの習慣化に向けて」、「介護保険サービスの安定と充実に向けて」、「地域での支え合いづくりに向けて」、「認知症との共生と予防に向けて」、「安心できる生活環境に向けて」の5つの施策を進めてきており、今後の主な課題は次のとおりです。

(1) 介護予防・健康づくりの習慣化に向けて

毎日の生活の中での介護予防・健康づくりを推進する習慣化に着目し、事業を実施してきました。

▼ 保健・介護一体的実施推進事業

	フレイル質問票	個別支援該当者数
延実施人数	605人	43人

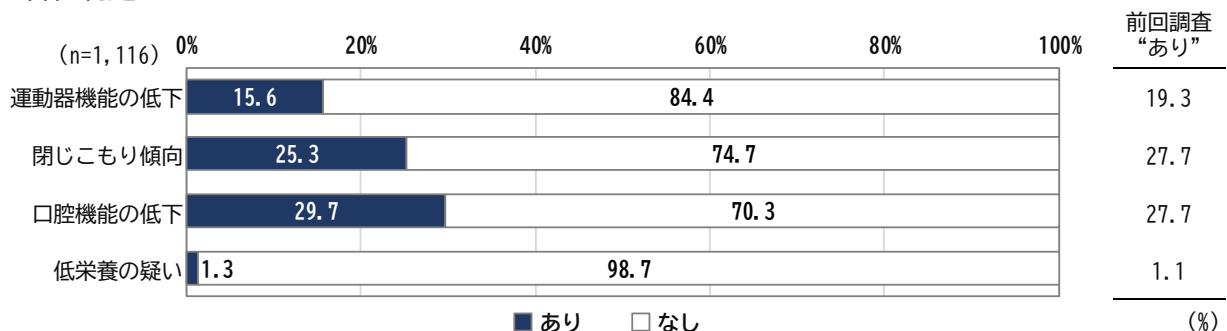
※えみなメイトでの実施数 令和3・4年度累計

▼ えみなメイト

	2023(R5)年度目標数	2023(R5)年度見込	達成状況
実施会場	26会場	27会場	★★★★★
延参加人数	5,100人	3,400人	★★★☆☆

▼ アンケート結果

○各種判定について



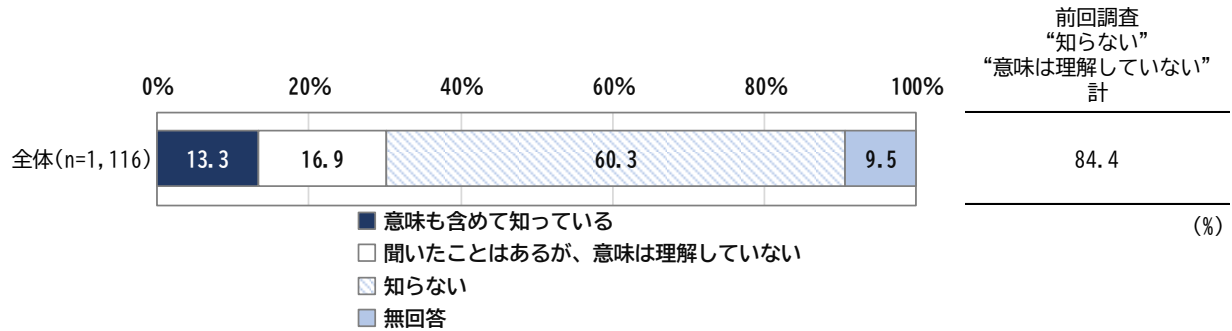
※判定に用いる設問において、該当選択肢を必要数回答されなかった場合は「なし」として集計しています。

【達成状況の見かた】

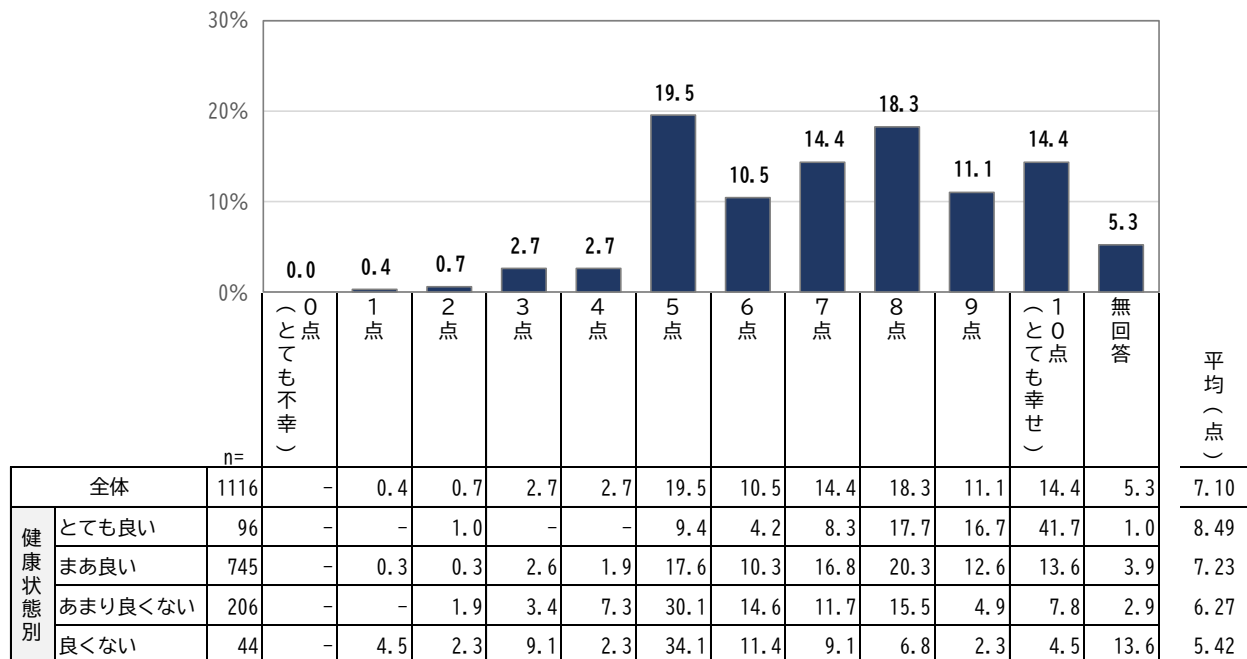
☆印は5つで100%を表し、出来栄え(達成率)を★で示しています。

☆☆☆☆☆	0~19%
★★★★☆	20~39%
★★★☆☆	40~59%
★★★★☆	60~79%
★★★★☆	80~99%
★★★★★	100%以上

○フレイルの認知度



○健康状態と幸福度の関係



【成果と課題】

- ▶ えみなメイトの会場数は維持していますが、新型コロナウイルスの影響で参加数が減少したまま回復していません。継続して事業の周知を行っていきます。
- ▶ フレイルについて積極的に周知をしてきましたが、知らない高齢者は約8割を占めている現状です。えみなメイトの参加者にフレイル質問票を実施し、個別支援該当者に保健師・管理栄養士による保健指導を実施しました。相談希望者は少ない状況ですが、ハイリスク者には電話や訪問等による積極的な支援が必要です。
- ▶ 地域包括支援センターの協力を得て、医療や介護保険の利用が無い健康状態不明者の状況把握を行ったところ、介護保険サービスや医療機関受診などの支援に繋がるケースがありました。特にひとり暮らしの人は、周囲が気づきにくく適切な支援が受けられない事があるため、継続して取り組む必要があります。
- ▶ 健康状態が良いほど、幸福度が高いという相関関係が見られます。高齢期には慢性的な疾病を抱えながらも上手につきあい、健康状態を維持することで、幸福な生活につなげることが目指す姿と考えられます。

(2) 介護サービスの安定と充実に向けて

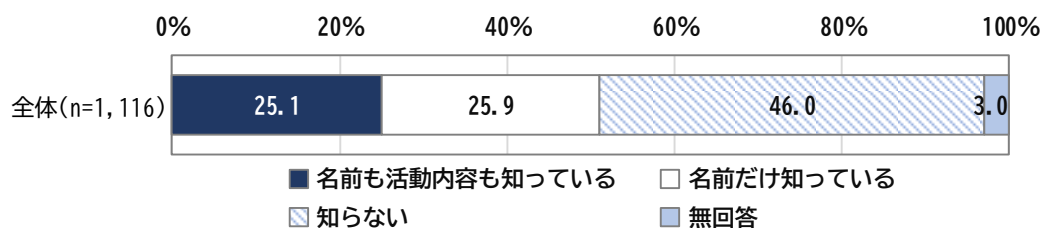
団塊の世代が75歳以上となる2025(令和7)年度を目途に在宅生活が継続できるよう、安定した介護保険サービスの提供体制の充実に努めてきました。

▼ 看護小規模多機能型居宅介護

	2023(R5)年度目標数	2023(R5)年度見込	達成状況
事業所数	1カ所	1カ所	★★★★★
登録人数	25人	25人	★★★★★

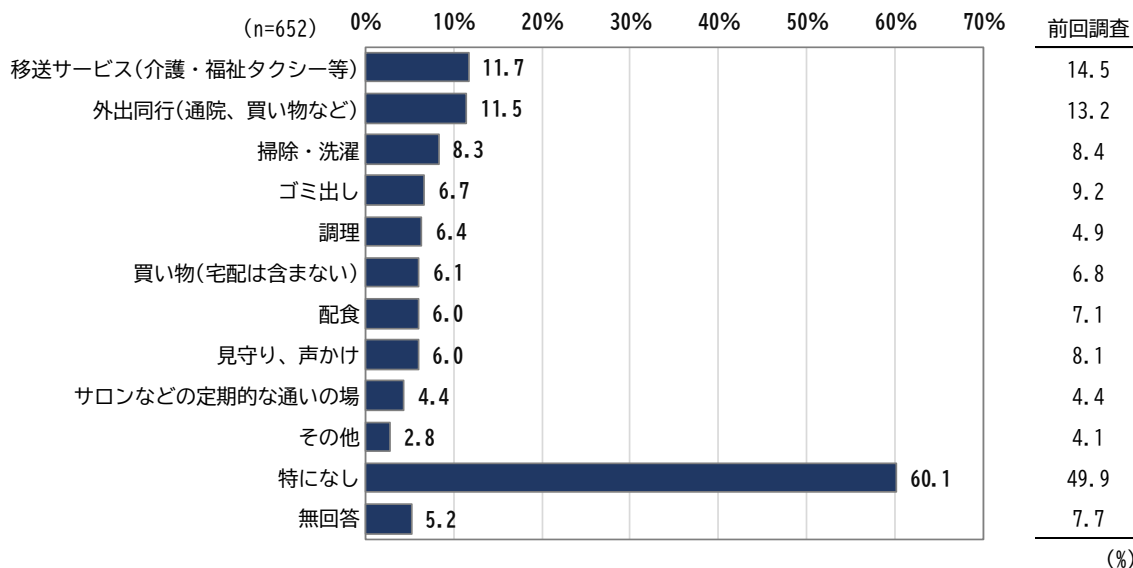
▼ アンケート結果

○地域包括支援センターの認知度

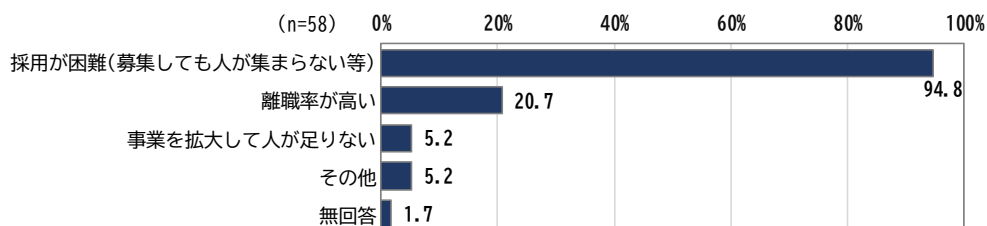


※前回調査設問なし

○今後在宅生活の継続に必要な支援・サービス

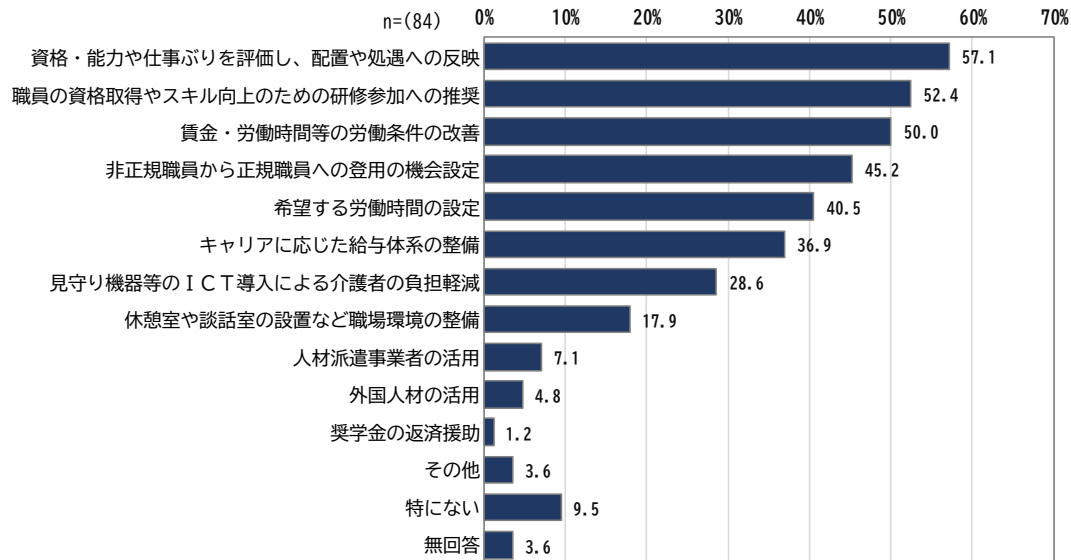


○職員の不足理由



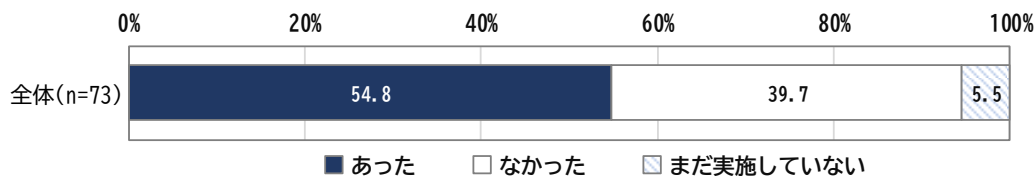
※前回調査設問なし

○人材確保のために取り組んでいること・取り組む予定のあること



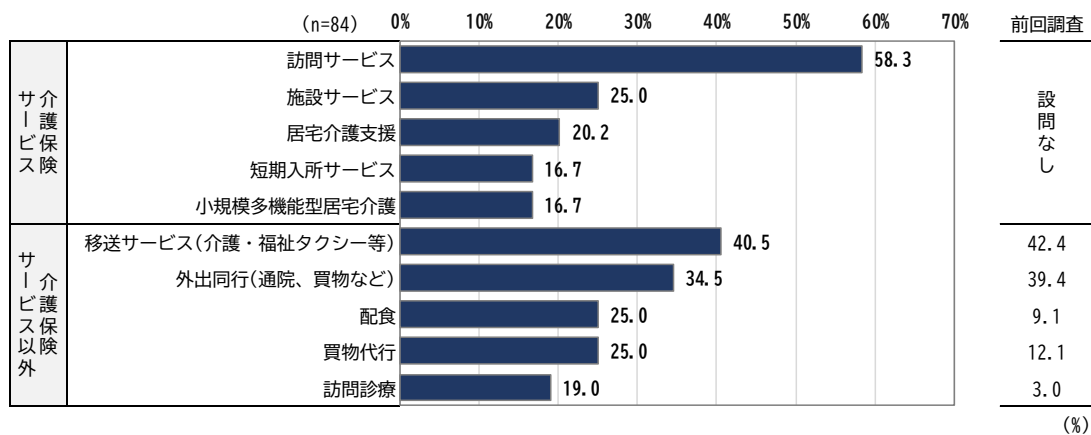
※前回調査設問なし

○人材確保のための取り組みの効果



※前回調査設問なし

○事業所が不足していると思うサービス(上位抜粋)



(%)

【成果と課題】

- ▶ 看護小規模多機能型居宅介護を設置することにより、医療需要の高い人の在宅生活を支える体制の充実を図ることができました。
- ▶ 事業所調査では、職員の不足理由について9割が「採用が困難」を選択しており、前回計画策定時より人材確保の困難な状況が進んでいることから、人材確保に向けた取り組みが急務となっています。
- ▶ 事業者が不足していると感じるサービスは訪問介護と移送サービスであり、在宅介護を支えるうえで、今後の検討が必要な事項となります。

(3) 地域での支え合いづくりに向けて

介護や支援が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、高齢者を地域全体で支えていくことや一人暮らし高齢者世帯等への支援の充実に努めてきました。

▼ 高齢者たすけ隊・見守り隊の協力事業所数

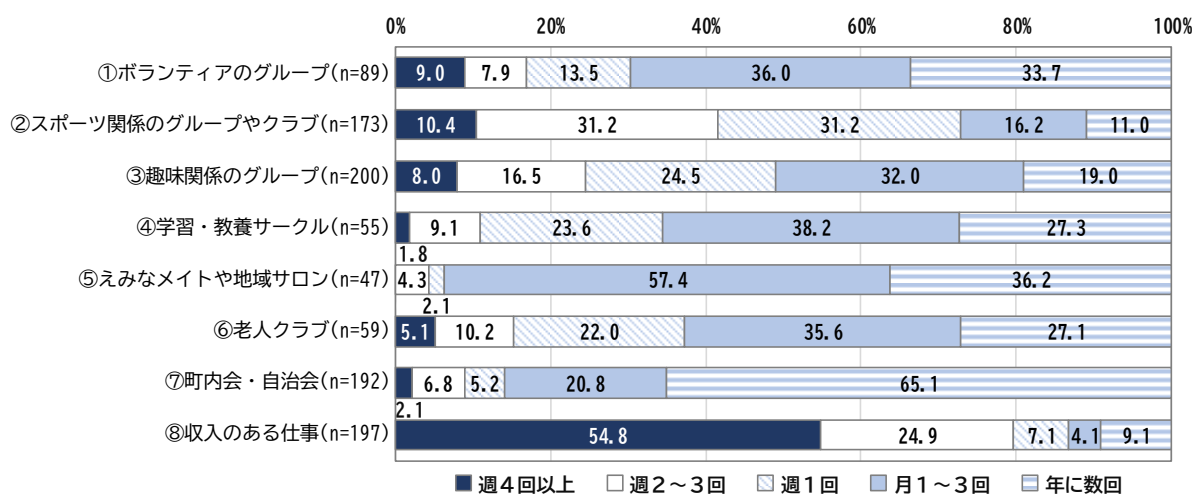
	2023(R5)年度目標数	2023(R5)年度見込	達成状況
協力事業所数	280事業所	260事業所	★★★★☆

▼ 一人暮らし高齢者世帯等への支援

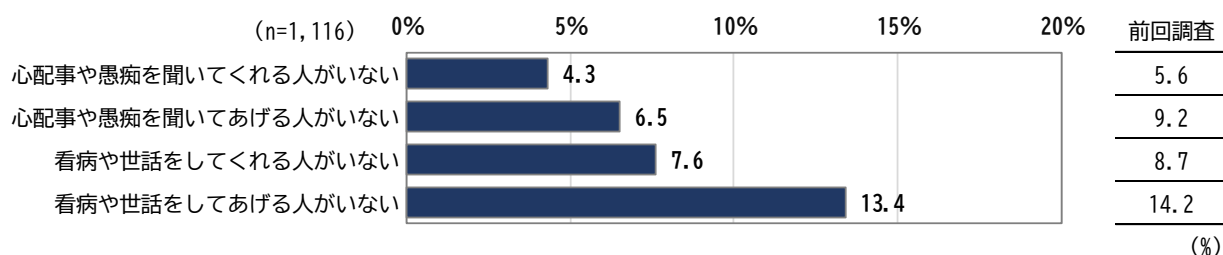
	2023(R5)年度目標数	2023(R5)年度見込	達成状況
緊急通報システム設置件数	408件	370件	★★★★☆
鍵の保管先登録件数	255件	205件	★★★★☆
緊急情報記録票配布件数	1,380件	1,013件	★★★★☆

▼ アンケート結果

○地域での活動への参加(「参加していない」「無回答」を除く)



○たすけあいについて



【アンケート結果からの孤独・孤立に関する抜粋】

○閉じこもり傾向がある方 **25.3%**

○地域活動は**一人暮らしの高齢者の方が参加率が高い**

○心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない方

85歳以上が**8.8%**、一人暮らしの方が**8.2%**と全体に比べて高くなっている

○看病や世話をしてくれる人がいない方

一人暮らし方が**21.7%**と最も高く、85歳以上の方が**12.2%**と最も高い

【成果と課題】

- ▶ 地域での支え合い支援として、社会福祉協議会との連携、高齢者たすけ隊・見守り隊の活動、地域支えあい情報ネットワークでの情報共有、町会や老人クラブ、ボランティアなどの地域づくりを推進してきましたが、人口減少と高齢化による担い手不足が懸念され、支援する側のサポート体制が必要です。
- ▶ 高齢者の孤独・孤立も社会問題化しており、アンケートの調査結果からも一人暮らしや高齢者が高い傾向があるため、関係機関と連携して、支える仕組みづくりが必要です。
- ▶ 地域包括支援センターが中心となり複雑な問題を抱える高齢者と家族が、必要な支援に結びつくよう手助けしています。年代にかかわらず家族介護者(ケアラー・ヤングケアラー)への支援が求められますが、関係機関と連携し、継続した取組が重要です。

(4) 認知症との共生と予防に向けて

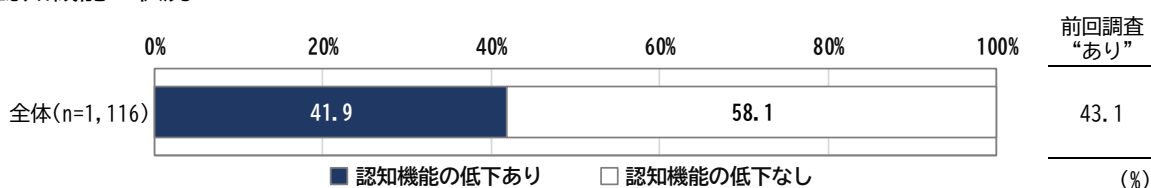
認知症の人ができる限り地域のよりよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、認知症の予防とともに、見守り支える支援体制の強化に努めてきました。

▼ 認知症サポーター養成講座

	2023(R5)年度目標数	2023(R5)年度見込	達成状況
延講座数（累積）	378回	344回	★★★★☆
延人数（累積）	9,821人	9,471人	★★★★☆

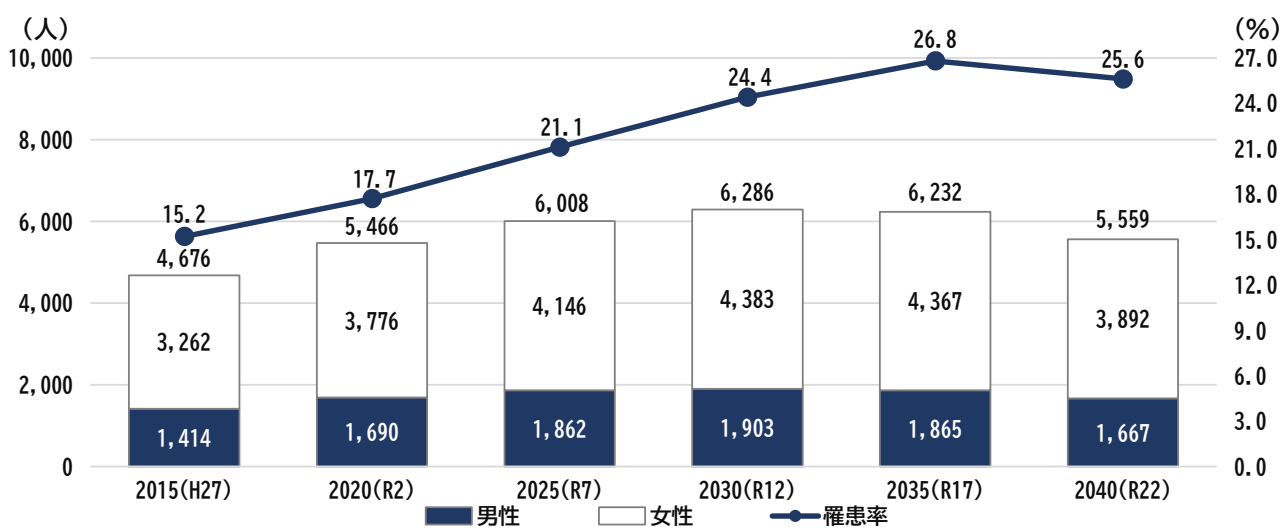
▼ アンケート結果

○ 認知機能の状況



※判定に用いる設問において、該当選択肢を必要数回答されなかった場合は「認知機能の低下なし」として集計しています。

○ 認知症高齢者数の推計



単位：人

	2015(H27)	2020(R2)	2025(R7)	2030(R12)	2035(R17)	2040(R22)
高齢者数	30,713	30,903	28,464	25,800	23,276	21,675
認知症罹患率	15.2%	17.7%	21.1%	24.4%	26.8%	25.6%
認知症高齢者数	4,676	5,466	6,008	6,286	6,232	5,559
女性	3,262	3,776	4,146	4,383	4,367	3,892
男性	1,414	1,690	1,862	1,903	1,865	1,667
全国認知症罹患率	15.5%	17.5%	20.0%	22.5%	24.6%	24.6%
全国認知症高齢者数	525万人	631万人	730万人	830万人	920万人	953万人

※全国認知症罹患率、高齢者数は国の報告書「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究総括研究報告書」P12の表3、厚労省の全国調査により報告された2012（平成24）年の認知症患者数で補正した場合

○認知症の人本人と介護者へのインタビューから抜粋

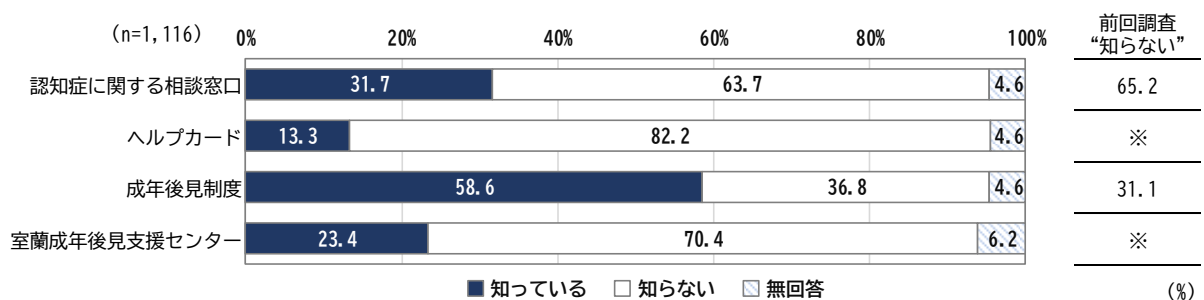
【認知症の人本人の思い】

- 「今住んでいるところにずっと住みたいのが願いの」
- 「このまま生きていたい。親しい人に会って話をしたい」
- 「出かける機会がもう少し増えるといい」
- 「知り合いとのつながり、人とのつながりを続けたい」

【認知症の人の家族の思い】

- 「このまま家で一緒に過ごしたい」
- 「怒鳴られた時などはどうしようかと思っていたが薬で落ち着いた」
- 「いなくなった時に見つけられる仕組みがあったらありがたい」
- 「本人にサービスを利用することに慣れてもらい旅行に行きたい」

○各種認知度について



※前回調査設問なし

【成果と課題】

- ▶ 認知症サポーター養成講座は新型コロナウイルスの影響から開催数が減少する一方、コロナ禍のためWebを利用する等開催の方法が広がりました。
- ▶ 予防教室を実施し、ファイブコグテスト(軽度認知症スクリーニングテスト)の維持改善や終了後、えみなメイトやボランティア活動等の社会参加に繋がりました。ニーズ調査では認知機能の低下の該当者が4割おり、予防対策が重要です。
- ▶ 本人や家族の思いを聴くことや社会参加の機会の創設が課題です。
- ▶ 認知症地域支援推進員が中心となって認知症ケアパス(認知症早わかり便利帳)の改訂版を発行し普及啓発に努めていますが、相談窓口やヘルプカード、成年後見支援センターの認知度は低い状況です。オレンジカフェや世界アルツハイマー月間のイベントなど身近な機会を利用した取り組みの継続が求められます。

(5) 安心できる生活環境に向けて

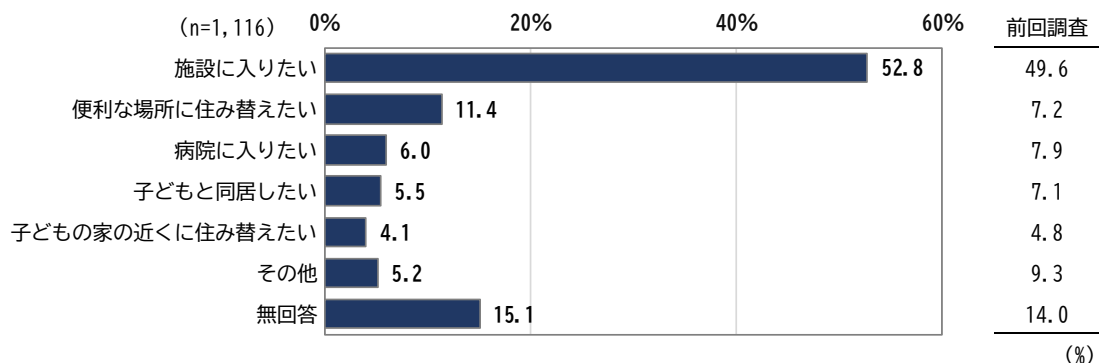
人口減少と高齢化が進む中、高齢になっても安心して住み続けられるよう、多様な住まいの確保や高齢者が地域の中で生きがいを持って生活できるような環境づくりに努めてきました。

▼ 生きがいづくりの推進

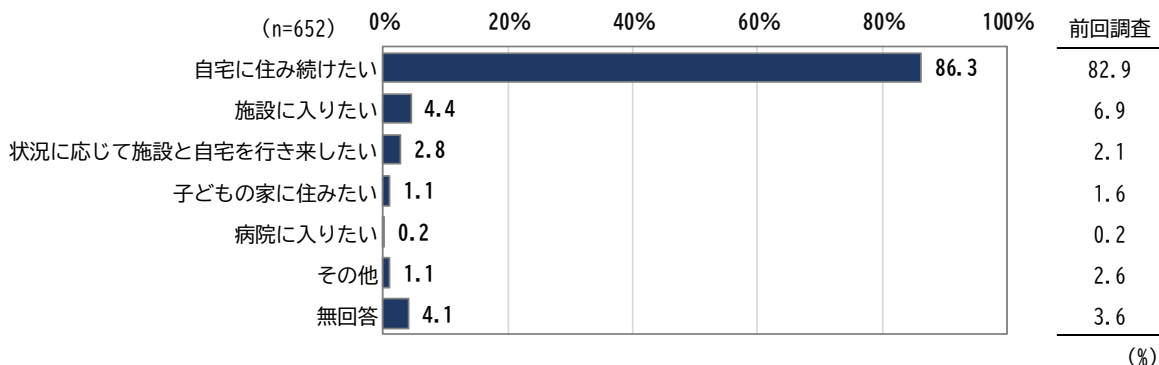
	2023(R5)年度目標数	2023(R5)年度見込	達成状況
生涯学習センター	8講座 14同好会	8講座 13同好会	★★★★★
悠悠ライフ	6講座	6講座	★★★★★
老人クラブ	46団体 2,171人	35団体 1,439人	★★★☆☆
市民活動センター	23講座 展示21回	23講座 展示21回	★★★★★

▼ アンケート結果

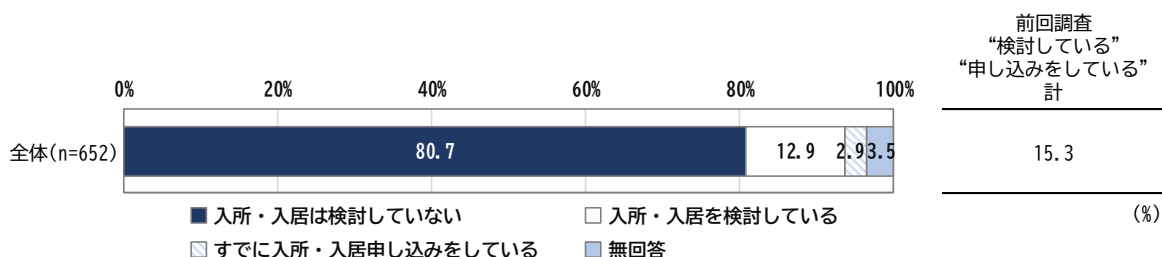
○今の住まいでの生活が難しくなった時、どこで生活したいか



○今後どこで生活したいか



○現時点での施設等への入所・入居の検討状況



○移動支援の推進

・ワンコインパス事業

2020(令和2)年7月より実証期間を設け、利用状況や効果を検証し、2023(令和5)年7月より本格導入しました。高齢者の外出支援の拡充を実施し、社会参加、介護予防、閉じこもり防止に努めています。

・運転免許証自主返納助成事業

高齢ドライバーの交通事故防止や免許返納後の外出支援も課題であったことから、ワンコインパス導入にあたり、免許証自主返納者のふれあいパス又はワンコインパスの初回購入費に対して全額助成を行い、免許返納の促進に努めています。

・Maas事業

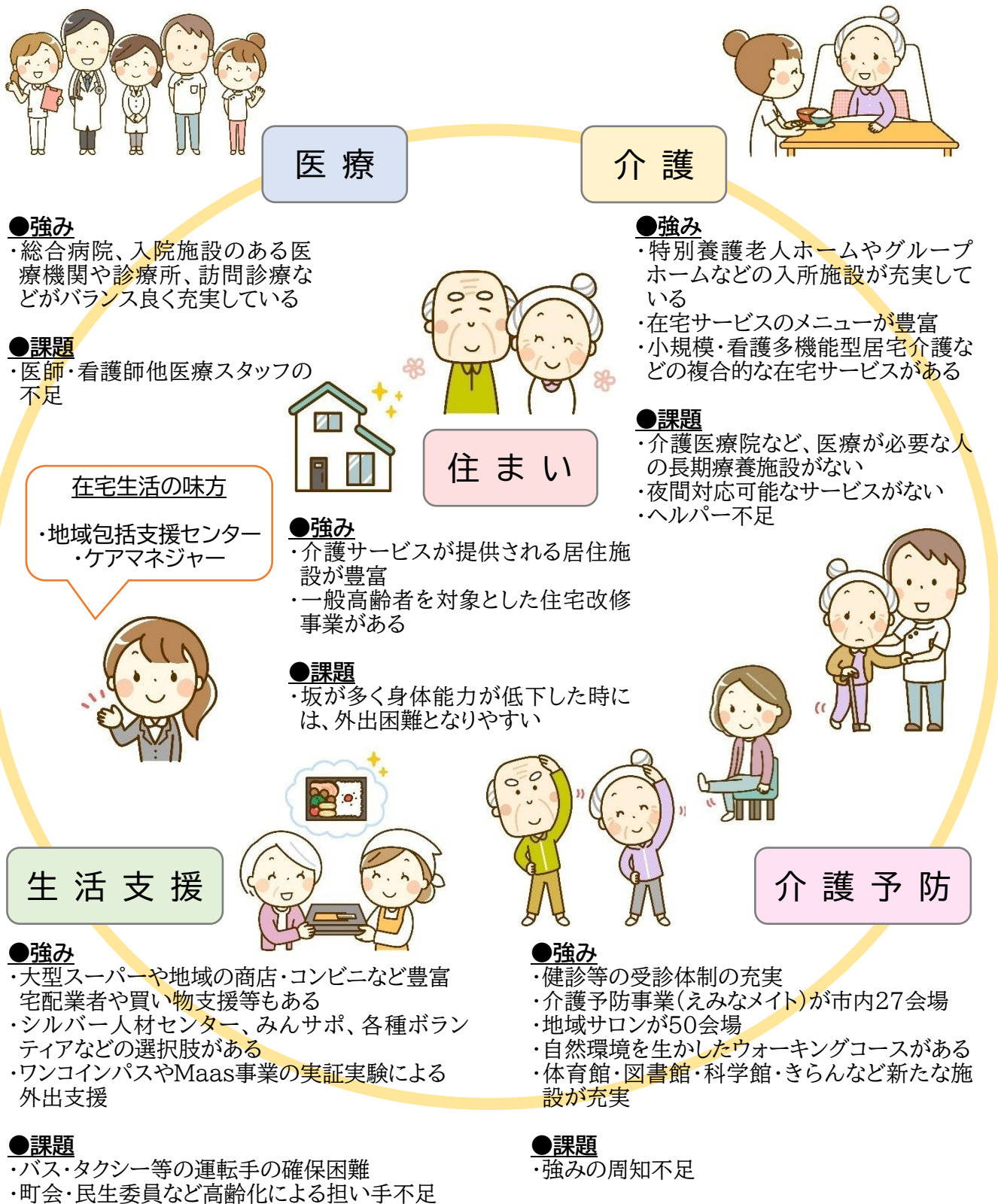
スマートフォンやタブレット等、ICTを活用した誰もが移動しやすい新たな交通サービスの提供に向け、産学官民が連携し、AIオンデマンド交通や、買い物連携型相乗りタクシーなどの実証実験に取り組みました。

【成果と課題】

- ▶ 多様な住まいを確保することを目的に、高齢者に配慮した市営住宅の整備1棟、サービス付き高齢者向け住宅1施設に対し整備のための助成金の交付を実施しています。
- ▶ 今後も自宅に住み続けたい人は8割を超えており、自身での生活が難しくなった際は施設に入りたいと考えている人は多く、どちらも前回計画策定時よりも増えています。
- ▶ 生きがいづくりのため各種講座を継続した他、生涯学習センターきらん、図書館科学館、体育館など高齢者も利用しやすい公共施設が整備されました。
- ▶ 高齢者の外出支援事業として、ワンコインパス事業、Maas実証事業、運転免許証自主返納助成事業を拡充して実施し、社会参加がしやすい環境づくりに努めました。
- ▶ 要介護者等災害弱者の避難を支援するために、避難行動要支援者名簿を作成し、地域の自主防災組織と連携し「個別避難計画」の作成に着手しています。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症への対策として、予防接種を実施し、重症化ハイリスクの高齢者を守る対策を講じました。

室蘭市の地域包括ケアシステムの現状と課題

地域包括ケアシステムとは、団塊の世代が75歳以上となる2025(令和7)年度をめぐりに、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域づくりのことで、地域の特性に応じて作り上げていくものです。



室蘭太郎さん 80歳の生活からみた地域包括ケアシステム



自立期

持病があっても、自立した生活を楽しむこの時期は、安心して暮らせる自宅、移動手段、店、近所、普段の体調をよく知る家庭医、町内会などが必要です。

- **住まい**: 自宅・賃貸住宅・有料老人ホーム・サービス付き高齢者住宅
- **医療**: 日常療養・急性期疾患など
- **介護**: 介護支援ボランティア
- **生活支援(買い物・掃除・洗濯他)**: 自立・就労・ボランティア・シルバー人材センター・
みんサポ(有償ボランティア)・近所の助け合い・民生委員の実態調査・町内会の見守り・緊急通報システム
- **介護予防**: えみなメイト・地域のサロン・サークル・趣味の会・体育館・図書館・きらん・習い事・
スポーツジム・老人クラブ・町会活動・くじらん健康ポイント・健診



支援や介護が必要な時期

心身の状態に合わせた介護サービスなどの助けを借りながら、地域での暮らしを続けます。病状により入退院を繰り返すこともあります。

- **住まい**: 自宅・賃貸住宅・有料老人ホーム・サービス付き高齢者住宅・介護保険施設・医療機関
- **医療**: 日常療養・急性期疾患・病状により入退院を繰り返す
- **介護**: 在宅サービス(訪問介護・通所介護・ショートステイ・福祉用具レンタルなど)
施設サービス(介護老人保健施設・グループホーム・特別養護老人ホーム他)
- **生活支援(買い物・掃除・洗濯他)**: ボランティア・シルバー人材センター・
みんサポ(有償ボランティア)・近所の助け合い・民生委員の実態調査・町内会の見守り・緊急通報システム
- **介護予防**: えみなメイト・お元気くらぶ・介護サービス(通所介護)・地域のサロン・サークル・趣味の会・
体育館・図書館・きらん・習い事・スポーツジム・老人クラブ・町会活動・くじらん健康ポイント・健診



終末期

人生の最終段階において、自分の望む医療や介護、生活を尊重された満足な終末期が理想とされます。

- **住まい**: 自宅・賃貸住宅・介護保険施設・医療機関
- **医療**: 入院・訪問診療・訪問看護
- **介護**: 在宅サービス(訪問介護・通所介護・ショートステイ・福祉用具レンタルなど)
施設サービス(介護老人保健施設・グループホーム・特別養護老人ホーム他)
- **生活支援(買い物・掃除・洗濯他)**: ボランティア・シルバー人材センター・みんサポ(有償ボランティア)・
近所の助け合い・介護サービス(訪問介護)・民生委員の実態調査・町内会の見守り・緊急通報システム